

前回会議での主な意見

【市民・教職員アンケート結果について】

- ・市民アンケートについて、小中学生がおられる回答者において、全体と比較して、小規模化を望ましくないと考えておられる方が多い印象である。
- ・望ましくない理由として多様な個性と触れ合う機会が少なくなるとあるが、小規模校でもそんなことはないと思う。
- ・教職員の業務分担からは、小規模校になると教職員数が少なくなることから、先生1人当たりの業務が増えることとなる。
- ・教職員も市民と概ね同様の認識を持っておられ、特にクラス替えが無いことに伴う人間関係の固定化や、教職員数が少なくなることに伴う校務負担の増が理由として挙げられている。
- ・単学級になってしまうと、他のクラスの先生方と協力し合ったりといったことができないという若い先生方が増えていることから懸念される。

【学校規模の基準について】

- ・望ましい学校規模基準の考え方について、下限の学級数に関する考え方のみであることから、上限に関する記述も必要ではないか。
- ・大規模化していくということについては、今後無いとは思いますが、理由としては、施設面と学校運営面が課題になってくるのではないかと思う。
- ・「望ましい」1学級当たりの児童・生徒数について、仮に現在と異なる基準を示したとしても、財政的な面からも実現性が乏しいのであれば、意味がない。そもそも、「望ましい」という定義で変わってくるものであり、現行の基準で大きな問題等が無いのであれば、基本的には現在の基準を示していけばいいのではないか。

【学校配置の基準について】

- ・通学区域を変更することの検討も必要とは考えるが、変更した場合、これまで校区であったコミュニティとは異なってくることから、うまくまとまるのか懸念される。例えば、壱分町の西側の子どもたちは大瀬中に通っているが、もし生駒南中学校に通学区域を変更した場合、そのようなことが起こる。
- ・北小平尾自治会は本来生駒南第二小学校区だが、多くが生駒南小学校に隣接校選択制を使って通っている。自治会との関係も考慮していく必要がある。
- ・通学区域の変更によって、学校規模の適正化ができるかが鍵になってくるとは思うが、現実的に自治会などの地域とのコミュニティもあることから、非常に難しい。

【学校規模適正化等検討に当たっての評価項目等について】

- ・評価項目として、施設の老朽状況が設定されているが、既存の学校を前提とするのであれば、必要ないのではないか。
- ・建築年数だけでは測れない部分もあり、他の項目で十分学校規模の適正化を評価できるということから、施設の老朽状況の項目については、削除する。